

和歌山県の地震

第 27 卷 10 号
令和元年 10 月

和歌山県の地震活動

震央分布図	・・・・・・・・ 1
断面図	・・・・・・・・ 2
概況	・・・・・・・・ 2
和歌山県で震度 1 以上を観測した地震及び震度一覧	・・・・・・・・ 3
震度分布図	・・・・・・・・ 4

地震メモ No. 311

南海トラフ地震関連解説情報 (令和元年 11 月 8 日)	・・・・・・・・ 6
-------------------------------	------------

- * この資料に使われている震源要素（北緯・東経）は、世界測地系に基づいています。
- * この資料の地震の震源要素は暫定値を使用しています。震度データを含めて再調査した後、修正することがあります。
- * 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点(河原、熊野座)、米国大学間地震学研究連合(IRIS)の観測点(台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東)のデータを用いて作成しています。
- * この資料に掲載した地図は、国土地理院の数値地図 25000(行政界・海岸線)を使用しています。

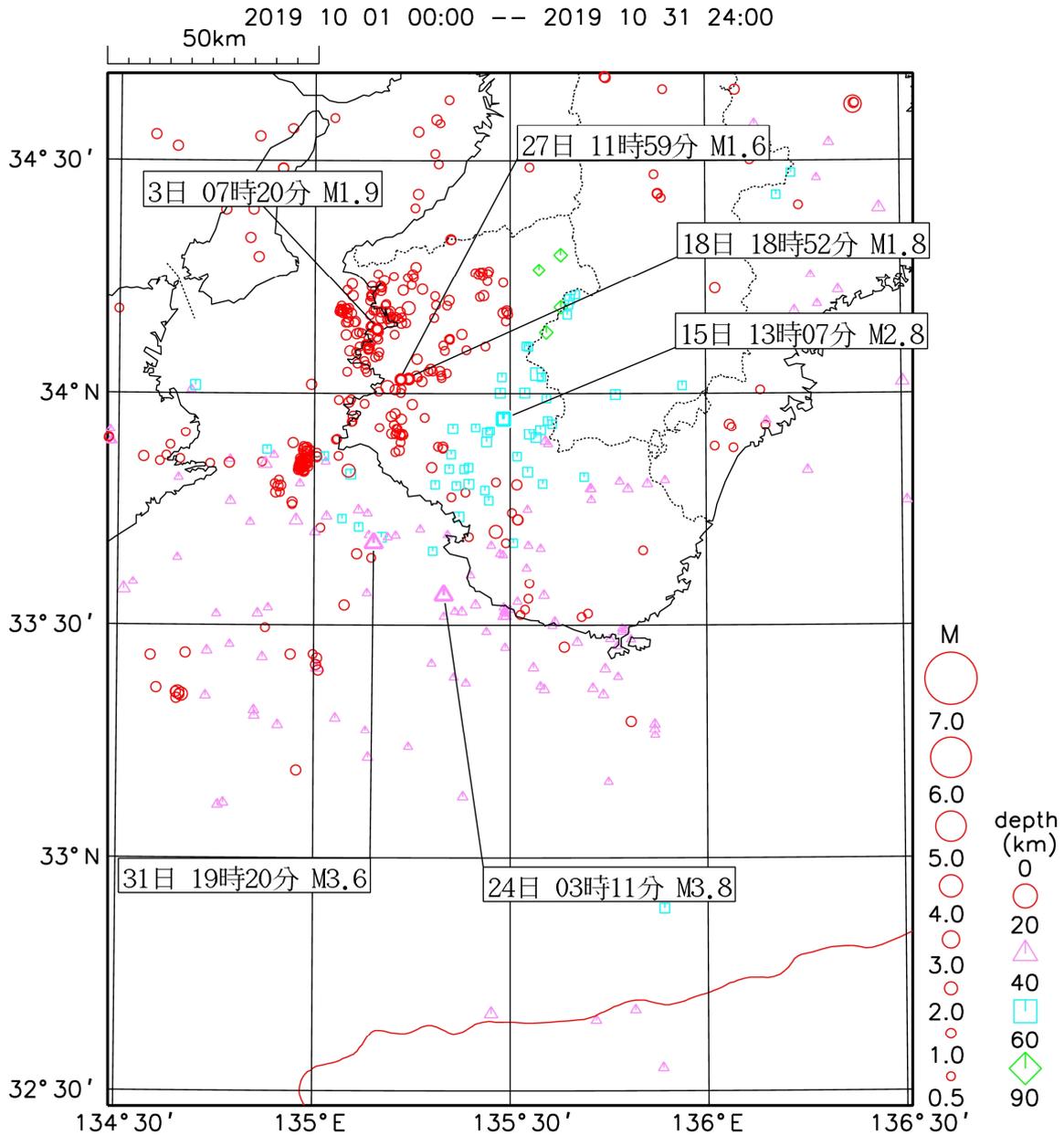
和歌山地方気象台

和歌山県の地震活動

2019年10月

和歌山地方気象台

震央分布図

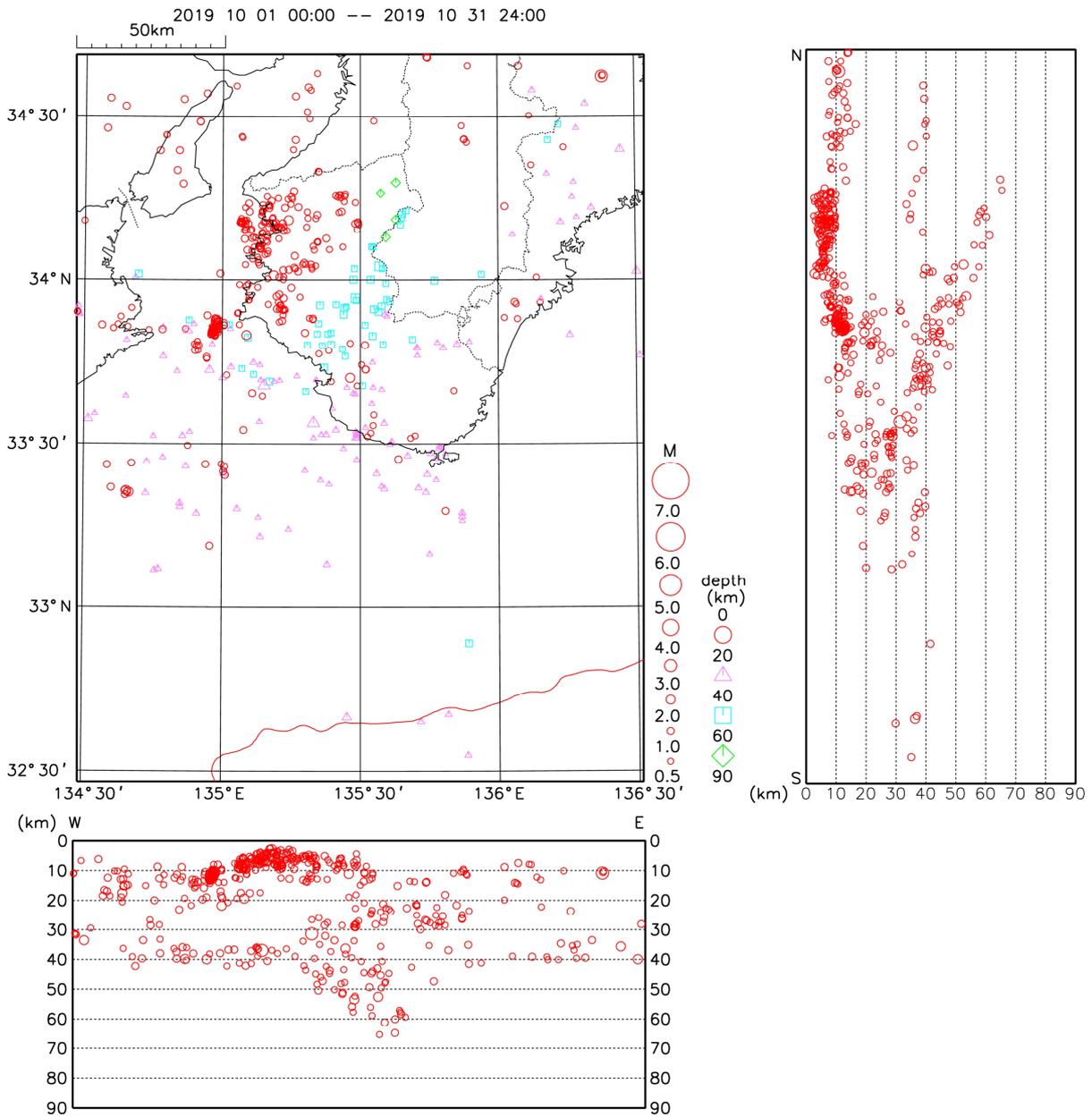


震央分布図は地震が発生した場所を地図上に描画したものです。

シンボルマークの大きさと地震の規模（マグニチュード）を、シンボルマークの形と色で震源の深さを表しています。また、赤線は海溝軸（南海トラフ）の位置です。

図中の吹き出しは、和歌山県内で震度1以上を観測した地震および震央分布図内で最も規模の大きな地震を示しています。

断面図



概況

10月の震央分布図内で震源決定した地震のうち、マグニチュード(M)2.0以上の地震は22回(前月は21回)でした。そのうち最も規模の大きかった地震は、24日3時11分和歌山県南方沖の地震(M3.8、深さ31km)でした。この地震はフィリピン海プレート内部で発生した地震でした。

10月に和歌山県内で震度1以上を観測した地震は、上記の地震を含め6回(前月4回)でした。

和歌山県で震度1以上を観測した地震及び震度一覧

発震時（年月日時分） 各地の震度（和歌山県内のみ掲載）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
2019年10月03日07時20分 和歌山県 震度 1：有田市初島町*	和歌山県北部	34° 08.2' N	135° 09.5' E	5km	M1.9
2019年10月15日13時07分 和歌山県 震度 1：田辺市中辺路町栗栖川*	和歌山県南部	33° 56.7' N	135° 28.9' E	53km	M2.8
2019年10月18日18時52分 和歌山県 震度 1：湯浅町青木*	和歌山県北部	34° 01.8' N	135° 14.4' E	4km	M1.8
2019年10月24日03時11分 和歌山県 震度 1：日高川町土生*、紀美野町下佐々*、田辺市中辺路町近露、田辺市中辺路町栗栖川* 田辺市本宮町本宮*、田辺市龍神村西*、新宮市新宮、新宮市磐盾* 新宮市熊野川町日足*、串本町潮岬、串本町串本*、古座川町高池	和歌山県南方沖	33° 33.8' N	135° 19.8' E	31km	M3.8
2019年10月27日11時59分 和歌山県 震度 1：湯浅町青木*	和歌山県北部	34° 01.7' N	135° 13.2' E	4km	M1.6
2019年10月31日19時20分 和歌山県 震度 1：和歌山市男野芝丁、和歌山市一番丁*、海南市下津*、御坊市藺、湯浅町青木* 由良町里*、日高川町土生*、紀美野町下佐々*、田辺市本宮町本宮* 田辺市中屋敷町*、白浜町日置*	紀伊水道	33° 40.6' N	135° 09.1' E	37km	M3.6

地点名の最後に*のついている地点は、和歌山県または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

令和元年度

和歌山県防災気象講演会

知ってよかった！気象と地震、避難行動

と き：令和元年12月15日（日）13：30～16：10
 ところ：和歌山県民文化会館 小ホール

講演1 **天気予報の見方・聞き方**
 ～和歌山県の気象と命を守る気象情報～
 講師：片平 敦 氏

講演2 **人を育み、未来を創る、防災を通じた教育**
 講師：大木 聖子 氏

参加無料
要事前申込
定員300名



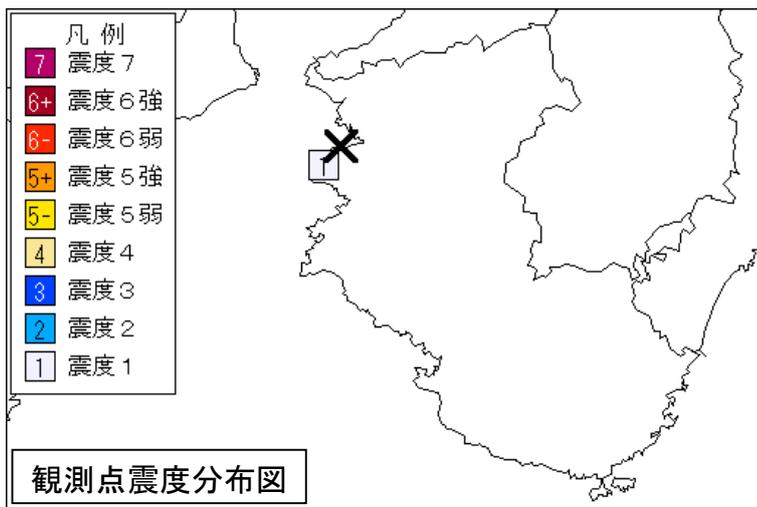
手話通訳
あり

<お申し込み方法>

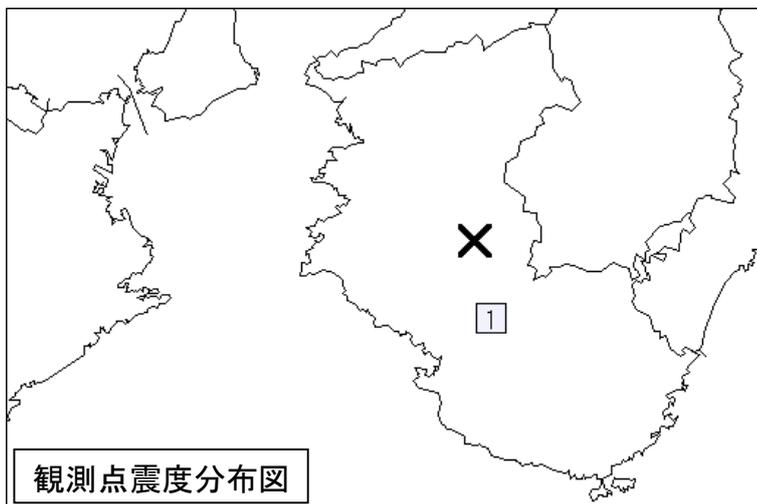
和歌山地方気象台のホームページ(<https://www.jma-net.go.jp/wakayama/>)をご覧ください。FAX またはメールでお申し込みください。お問い合わせは、お電話(073-432-0632)で承ります。

震度分布図（図中の×は震央）

2019年10月03日07時20分 和歌山県北部の地震(M1.9、深さ5km)



2019年10月15日13時07分 和歌山県南部の地震(M2.8、深さ53km)

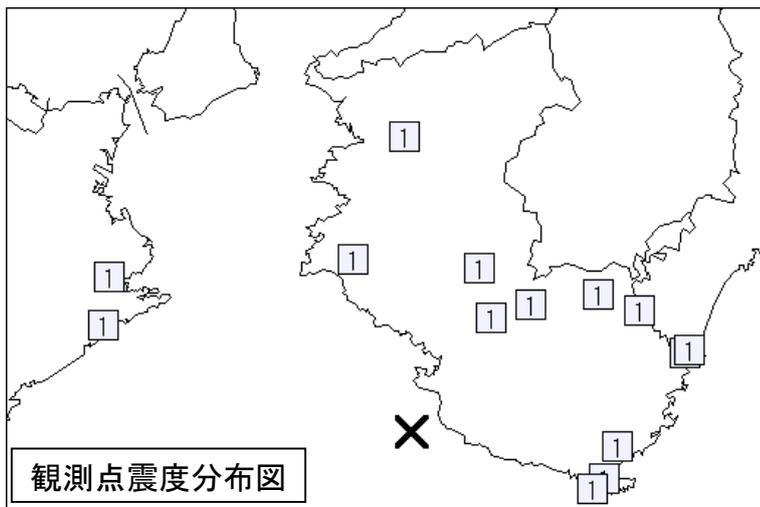


2019年10月18日18時52分 和歌山県北部の地震(M1.8、深さ4km)

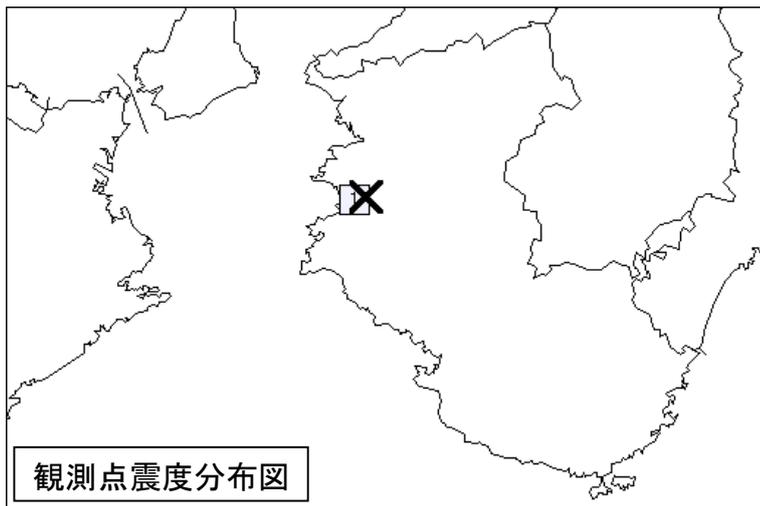


震度分布図（図中の×は震央）

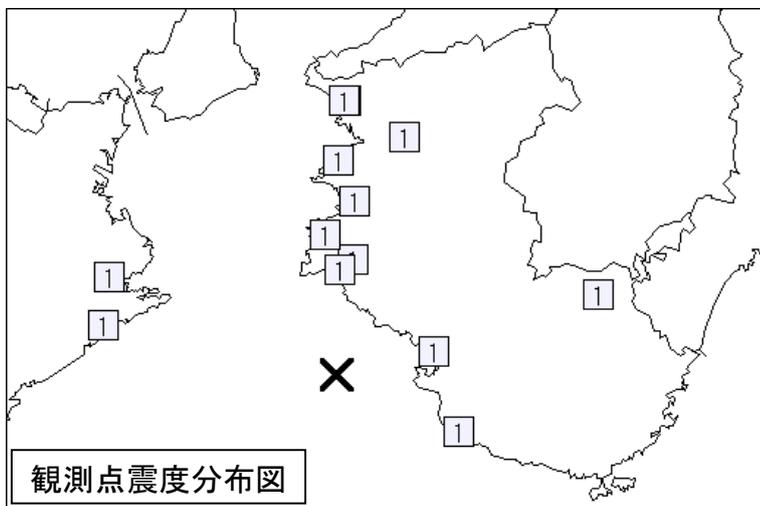
2019年10月24日03時11分 和歌山県南方沖の地震(M3.8、深さ31km)



2019年10月27日11時59分 和歌山県北部の地震(M1.6、深さ4km)



2019年10月31日19時20分 紀伊水道の地震(M3.6、深さ37km)



南海トラフ地震関連解説情報 (令和元年 11 月 8 日)

南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

1. 地震の観測状況

(顕著な地震活動に関する現象)

南海トラフ周辺では、特に目立った地震活動はありませんでした。

(ゆっくりすべりに関係する現象)

プレート境界付近を震源とする特に目立った深部低周波地震(微動)はありませんでした。

2. 地殻変動の観測状況

(ゆっくりすべりに関係する現象)

2018年春頃から九州北部のGNSS観測で、また、2018年秋頃から四国西部のGNSS観測及びひずみ観測で観測されている、それまでの傾向とは異なる地殻変動は、2019年6月頃から停滞しているように見えます。

(長期的な地殻変動)

GNSS観測等によると、御前崎、潮岬及び室戸岬のそれぞれの周辺では長期的な沈降傾向が継続しています。

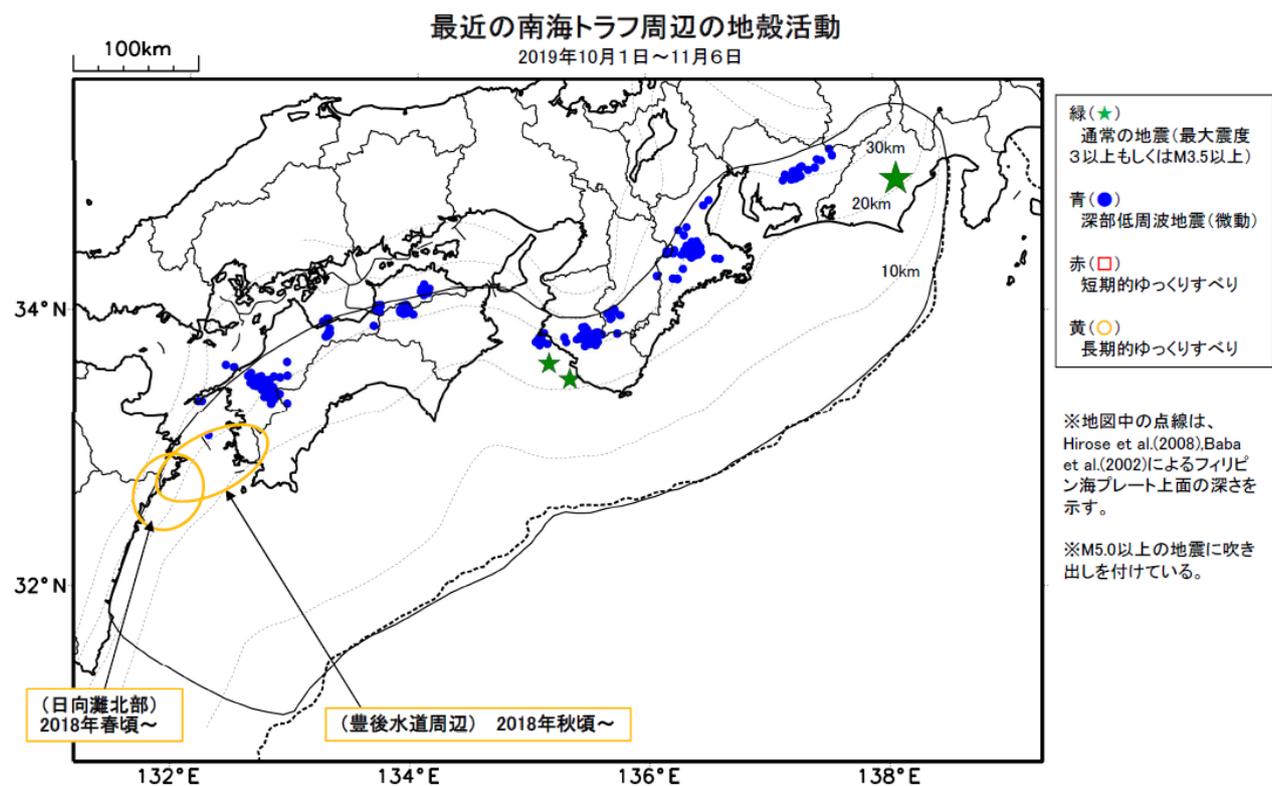


図 南海トラフ周辺の地殻活動をとりとまとめた図

この資料は、「南海トラフ地震関連情報」の普及を目的に、発表された『南海トラフ地震関連解説情報』の内容を抜粋、編集加工した概略を掲載しています。各観測状況の評価等、より詳細な事項等は以下 URL の資料をご覧ください。

- ・ 南海トラフ地震関連解説情報 <https://www.data.jma.go.jp/svd/eew/data/nteq/index.html>
- ・ 報道発表資料 <https://www.jma.go.jp/jma/index.html> ※新着情報をご覧ください